

XI 病害虫防除実用化試験等成績

作物名	病害虫名	設 置 所	方 法	結 果
水 稲	ばか苗病	諫早市 貝津町	ヘルシード水和剤とトリフミン乳剤について、ペノミル剤耐性菌感染種を用い、ペンレートT水和剤とトリフミン水和剤を対照薬剤として1区1箱3反復で検討。	ヘルシード水和剤の200倍液とトリフミン乳剤300倍液の24時間処理はペノミル剤耐性菌感染種初に対して対照薬剤よりも防除効果があり、薬害もなく、実用性があると思われた。
	もみ枯細菌病	諫早市 貝津町	スターナ水和剤の200と400倍液の24時間浸漬及び乾籾重の0.5%湿粉衣について1区1箱2反復、本田12㎡2反復で検討した。	育苗期には腐敗枯死苗が発生せず、本田では各処理区、無処理区とも高い発病率を示したため、防除効果は明らかではなかった。再検討。
	スクミリングカイ	諫早市 小野島町	移植後5日にキタジンP粒剤とルーバンM粒剤を10a当たりそれぞれ5kgと4kgについて1区4a2反復で検討した。	キタジンP粒剤の殺虫効果はルーバンM粒剤よりも高く、食害株率も低く、実用性が認められた。
大 豆	ハスモンヨトウ	北高来郡 森山町 大開	トレポン粉剤とカルホストレポン粉剤について、カルホス粉剤を対照薬剤として1区3a2反復で検討した。	防除効果はカルホストレポンが最も大きく、3令まで十分な殺虫効果がみられた。トレポンはカルホスと同等の効果であり実用性が認められた。 なお、いずれの薬剤も薬害はなかった。
ばれいしょ	疫 病 (1)	南高来郡 吾妻町 山田原	フロンサイド水和剤1000倍と、リドミル銅水和剤400倍及び800倍について、ジマンダイセンM水和剤600倍を対照区として春ばれいしょ1区12㎡3反復で検討した。	疫病の発生がやや少ない条件下であったが、フロンサイド水和剤1,000倍とリドミル銅水和剤400倍及び800倍のいずれも対照のジマンダイセンM水和剤600倍と同等の防除効果を示し、薬害もなく、実用性があると考えられた。 なお多発条件下で再検討。

作物名	病害虫名	設 置 場 所	方 法	結 果
ばれいしょ	疫 病 (2)	南高来郡 愛野町 谷頭	フロンサイド水和剤1,000倍 とリドミル銅水和剤400倍及び8 00倍について、グリーンMダイフ ァー水和剤500倍を対照区として 春ばれいしょ1区3.6㎡3反復 で検討した。	疫病の発生がやや少ない条件下であ ったが、フロンサイド水和剤1,000倍と リドミル銅水和剤400倍は、グリーン Mダイフアー水和剤500倍とほぼ同等 の防除効果を示し、リドミル銅水和剤 800倍は同等もしくはやや劣った。い ずれの区も薬害はなく、実用性がある ものと考えられた。なお多発条件で再 検討。
	アブラムシ	南高来郡 吾妻町 山田原	テルスター水和剤1,000倍と ペイオフ乳剤1,000倍及び1,500 倍について、ランベック乳剤、 サイハロン水和剤及びランベッ ク乳剤の3薬剤の体系防除区と の比較を1区12㎡3反復で検討 した。	モモアカアブラムシとワタアブラム シが中発生、チューリップヒゲナガア ブラムシが多発生の条件下で、テルス ターとペイオフはいずれの処理区にお いても、対照の体系区にまさる高い防 除効果を示し、薬害も認められず、両 剤とも1,000倍で実用性があると考え られた。
はくさい	根こぶ病	島原市 三会	フロンサイド粉剤10a当たり 30kgと40kgについて、対照薬剤 のハタクリン粉剤40kgと1区25 ㎡3反復で比較検討した。	前年収穫皆無であったほ場で実施し たにもかかわらず、本病の発生が少な く、しかも著しいかたよりが見られた ため、防除効果の判定ができなかった。 要再検討。
だいこん	コナガ	諫早市 湯野尾町 川頭	アタブロン乳剤2,000倍につ いて、トアロー水和剤CT1,000 倍を対照区として、1区10㎡3 反復で検討した。	コナガの発生が少なく、効果の判定 が困難であった。薬害は認められなかつ た。多発生条件下で再検討。

作物名	病害虫名	設 置 場 所	方 法	結 果
な す	ハダニ	諫早市 長野町 長野	テルスター水和剤1,000倍について、オサダン水和剤1,200倍を対照区として1区10㎡2反復で検討した。	両剤同等の防除効果が認められ、実用性があるものと考えられた。
いちご	アブラムシ	長崎市 牧島町	マブリック水和剤20の8,000倍について、ディフテレックス乳剤500倍を対照区として1区30㎡3反復で検討した。	マブリック水和剤20の8,000倍は、ディフテレックス乳剤500倍と同程度の効果があり、薬害も認められず、実用性があるものと考えられた。
かんきつ	カイガラムシ類	諫早市 大場町 山留坂	ハウスみかんのコナカイガラムシを対象として、アブロード水和剤1,000倍について、対照薬剤のスプラサイド水和剤1,000倍と比較検討した。1区1樹2反復。	アブロード水和剤はスプラサイド水和剤よりも遅効的で散布後2か月後において同等の効果が認められた。アブロード水和剤は十分な効果が得られるまでに、時間はかかるが実用性はある。なお、両剤とも薬害は認められなかった。
	ミカンハダニ	北高来郡 高来町 湯江	マーコットのハウス栽培において、マブリックジェットとバイデン乳剤（対照）を比較検討するため、対照薬剤区にビニール袋をかぶせて処理した。	マブリックジェットは残効期間が2週間程度と考えられ、単一使用ではやや効果が劣るが、体系防除の中に組み入れることを考えると実用性がある。なお、両剤とも薬害は認められなかった。
		北高来郡 高来町 深海	ロディー乳剤1,000倍について、オサダン水和剤2,000倍を対照区として1区10樹反復なしで検討した。	ロディー乳剤は、オサダン水和剤よりも高い防除効果を示し、薬害も認められなかった。実用性は高いと思われる。

作物名	病虫害名	設置場所	方法	結果
かんきつ	チャノキイロアザミウマ	大村市 今村町	6月12日にオルトラン水和剤1,500倍を全試験区に散布したのち、7月10日と8月14日の防除体系をサイハロン水和剤2,000倍の反復処理と、7月10日マンゼブ水和剤1,500倍、8月14日オルトラン水和剤1,500倍の体系処理を1区6樹反復なしで検討した。	サイハロン反復処理体系は、対照のマンゼブ水和剤とオルトラン水和剤の組み合わせ体系に比べてほとんど差がなく、又無処理区における寄生密度も少なく防除効果の判定ができなかった。いずれも薬害は認められなかった。実用性については再検討の必要がある。
なし	黒斑病	大村市 弥勒寺町	二十世紀なし園において、フロンサイド水和剤1,000倍の4回連続散布について、対照区のデラン水和剤1,000倍とアントラコール水和剤500倍の交互散布区並びに慣行防除区と比較検討した。1区1樹2反復。	フロンサイド水和剤1,000倍の約10日おき4回散布は同間隔のデラン水和剤2回、アントラコール2回の交互散布と同等の効果であった。薬害はいずれの薬剤でも認められなかった。フロンサイド水和剤1,000倍の散布は実用性があると思われた。
	ハダニ類	諫早市 小船越町	ミカンハダニが多発した新水と幸水園において、カーラフロアブル2,000倍について、オサダン水和剤2,000倍を対照区として比較検討した。	カーラフロアブル2,000倍はある程度効果はあったものと考えられたが、無処理区との差が大きくなかったため、実用性は再検討が必要と考えられた。なお、薬害は認められなかった。
ぶどう	黒とう病、枝膨病	佐世保市 矢峰町	フロンサイド水和剤2,000倍について、ジマンダイセン水和剤800倍を対照として、巨峰園で1区1樹2反復で検討。	両病害とも小発生条件下ではあったが、フロンサイド水和剤はジマンダイセン水和剤と同等の効果があると考えられた。実用性については多発条件下で検討する必要がある。

作物名	病害虫名	設 置 場 所	方 法	結 果
茶	チャノホソガ、 チャノコカクモン ハマキ	東彼杵郡 東彼杵町 中尾郷	テルスター水和剤、アグロスリン水和剤及びロディー乳剤について、エビセクト水和剤又はランネート水和剤を対照薬剤としていずれも1,000倍液で1区10㎡3反復で検討した。	チャノホソガ、チャノコカクモンハマキのいずれに対しても、テルスター水和剤、アグロスリン水和剤及びロディー乳剤は、対照薬剤よりも防除効果が高く、薬害も認められないことから実用性は高いと考えられた。
しょうが	アワノメイガ	長崎市 船石町	アタブロン乳剤2,000倍、カルホス乳剤1,000倍及びオルトラン水和剤1,000倍について、バダン水溶剤1,000倍を対照薬剤として1区30㎡2反復で検討した。	アワノメイガの発生は少なかったが、アタブロン乳剤、カルホス乳剤、オルトラン水和剤とも対照のバダン水溶剤と同等の効果があり、いずれも薬害は見られなかった。実用性はいずれもあると考えられたが、多発条件下での検討が望まれる。